

# CASBEE® - 建築(新築)

# 評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.3.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	折居清掃工場更新施設整備運営事業	階数	地上6F地下2F
建設地	京都府宇治市宇治折居18番地	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域、法22条地域	平均居住人員	26人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2016年2月3日
敷地面積	30,238 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	3,272 m <sup>2</sup>	確認日	2016年2月5日
延床面積	7,241 m <sup>2</sup>	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.5</b> ★★★★★</p> <p>S: A: B+: B: C:</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>30% 60% 80% 100% 100%超:</p> <p><b>標準計算</b></p> <p>建設 修繕 更新 解体 運用 オンサイト オフサイト</p> <p>参照値: 100%</p> <p>建築物の取組み: 91%</p> <p>上記+ 以外の: 91%</p> <p>上記+: 91%</p> <p>0 46 92 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> <i>Qのスコア = 3.0</i></p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> <i>Q1のスコア = 3.0</i></p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> <i>Q2のスコア = 3.2</i></p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> <i>Q3のスコア = 3.0</i></p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> <i>LRのスコア = 3.6</i></p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> <i>LR1のスコア = 4.3</i></p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> <i>LR2のスコア = 3.2</i></p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> <i>LR3のスコア = 3.0</i></p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>周辺環境からの景観に配慮した配置、外観計画とし、敷地内に積極的に緑化を行った。</p>	<p><b>その他</b></p> <p>特に無し。</p>	
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>建築基準法に適合する仕様としている</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>高圧電気室、非常用発電機室を1階に設け、工場内に車両が出入り出来るメンテナンス通路を設けた。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>敷地周辺に緑地を設けると共に、既存工場跡地を緑地とした。人が出入り出来る屋上緑化を設けた。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>太陽光発電を設けた。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>部分的にリサイクル資材を採用した。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>各種法に適合させた仕様としている。</p>

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと。評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される